

日本脳炎について

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。人から直接ではなく、ブタなどの体中で増えたウイルスが、コガタアカイエカなどの蚊によって媒介されます。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。人から人への感染はありません。

流行は、西日本地域が中心ですが、ウイルスは日本全体に分布しています。飼育されているブタでの流行は、毎年6月から10月まで続きますが、この間に、地域によっては、約80%以上のブタが感染しています。以前は、小児、学童に発生していましたが、予防接種の普及などで減少し、最近では予防接種を受けていない高齢者を中心に患者が発生しています。

感染者のうち、100～1,000人に1人が脳炎を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかった時の死亡率は20～40%ですが、神経の後遺症を残す人が多くいます。

乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンについて

日本脳炎ウイルスを Vero 細胞(アフリカモドリザル腎臓由来株化細胞)で増殖させて、得られたウイルスを採取し、ホルマリンで不活化(感染原性をなくすこと)した後、精製し、安定剤を加え、凍結乾燥したワクチンです。

副反応

主な副反応としては、発熱、注射部位の発赤や膨脹、咳、鼻水があります。また、重大な副反応としては、まれにショック、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)、けいれん、血小板減少性紫斑病、脳炎・脳症があらわれることがあります。

対象者及び接種スケジュールについて

1期	接種回数	接種対象者(対象年齢)
初回接種	2回	6か月以上 7歳6か月未満
追加接種	1回	

※接種対象年齢を過ぎると、公費での接種は受けられなくなります。



- ※初回接種として行う2回の接種が最も重要ですので、忘れずに接種を受けましょう。
- ※6か月以降3歳未満での接種を希望する場合は、予診票をお送りいたしますので、保健センターまで御連絡ください。
- ※3歳未満の接種量は0.25ml、3歳以降の接種量は0.5mlです。
- ※実施協力医療機関一覧表に掲載している日本脳炎の実施協力医療機関は、3歳以上7歳半未満での接種が可能な医療機関です。6か月以降3歳未満での接種が可能かどうかは、各医療機関にお問い合わせください。

接種時に持参するもの

- ① 日本脳炎予防接種予診票
- ② 母子健康手帳(接種歴を確認するとともに、予防接種を受けたことを記録します。)